ニューヨーク在住の日本人クリエーターによる

新感覚社会派ドラマ

『報道バズ』

目次

作品紹介 ---------- 2

登場人物、俳優 ---------- 2

各話あらすじ ---------- 4

クリエイターチーム「デルック」---- 6

関連リンク ---------- 8

お問い合わせ ---------- 8

❖ 作品紹介

役割を押し付けられる窮屈な仕事場にうんざり。セクハラにもうんざり。日本のテレビ局で働く三十路目前のアナウンサー・和田明日佳は、報道への憧れに背中を押され、仕事を辞めてニューヨークのニュースアプリの会社への再就職を決意した。心機一転、夢にまで見た街で人生をやり直せるかと思いきや、新しい職場では「使い物にならない」と一蹴され、インターネットでも誹謗中傷の嵐に合う。逆風に負けまいと必死にニュースを追うものの、取材中のミスによって誤報を流したと思ったら、挙げ句の果てには報道バズ内の犯罪事件に巻き込まれ、自分が「ニュース」になってしまう羽目に。なぜニュースを読まなければいけないのか。なぜ日本にいた時の自分のままではいけなかったのか。ニューヨークの荒波に揉まれる中で、和田が見つけた答えとは。

Derrrrruq!!!

『報道バズ』は、ニューヨーク在住の日本人クリエイターチーム「デルック」の作品です。第 1 作目である YouTube 連続ドラマ『二アベ（2nd アベニュー）』の完成から 4 年、今回も全編地元ニューヨークロケを敢行、世界をインスパイアし続けるこの街の魅力を日本人の視点で描いた新しいドラマを日本の視聴者の皆様にお届けします。

❖ 登場人物

和田 明日佳（27）：報道志望のアナウンサーなのに、仕事はバラエティ番組ばかり。セクシーにバナナを食べたり、水着になったりする毎日に嫌気がさし、日本のテレビ局を辞めてニューヨークで起死回生を図る。「人にニュースを伝えたい」という素朴な想いはネットからも同僚からも批判され、孤独に夢を叶えるために戦うことに。

（本田 真穂：「Newsroom（HBO）」「Unbreakable Kimmy Shmidt（Netflix）」東レ水着キャンペーンガール他。「デルック」プロデューサーの１人。）

柴田 哲也（37）：報道バズ編集長。冷静沈着で部下からの信頼も厚いが、「伝説のジャーナリスト」と呼ばれた偉大な母親に対して大きなコンプレックスがあり、今まで自分の能力に自信が持てたことがない。

（松崎 悠希：「パイレーツ・オブ・カリビアン」「ラスト・サムライ」「硫黄島からの手紙」「ピンクパンサー2」「HEROS（NBC）」他。）

森 敦（25）：報道バズ社員。英語が話せそうな顔なのに実は全然話せない、自称「残念ハーフ」なイケメン。軽いノリで決めた就職先だったが、全身全霊で働く和田の姿に少しずつ影響を受ける。

（辛 源：ミュージカル「レント」日本版オリジナルキャスト、「テレビジャパンCLUB (NHK)」メインキャスター他。）

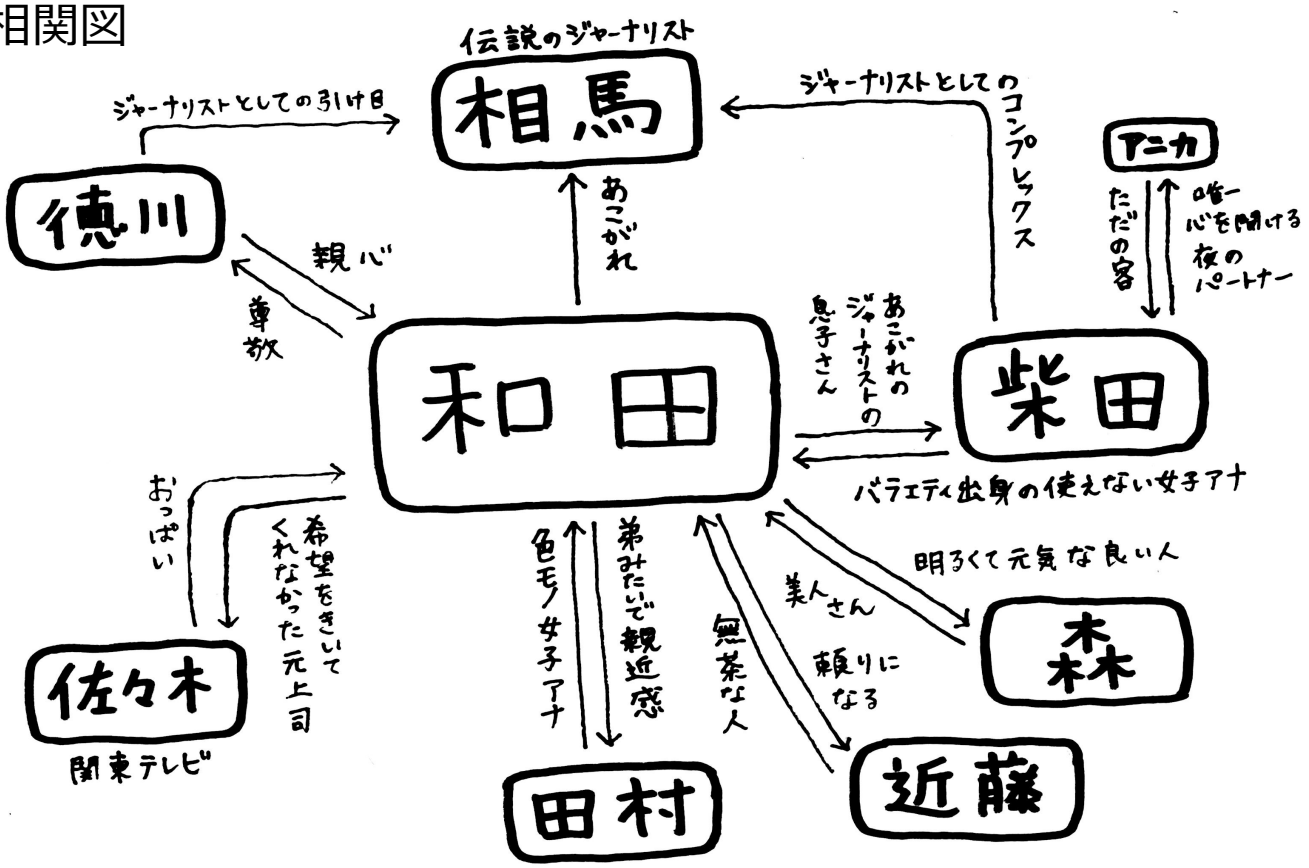
近藤史央莉（22）: 報道バズ社員。日米ハーフで完全バイリンガル。柴田の右腕として真面目に働く。アイデンティティの悩みを抱え、なんとか日本人としての自分を見つけようとするが、職場ではアメリカ人気質を隠せない。

（コリンズ ユリエ：「Girls（HBO）」「The OA (Netflix)」 他。）

田村 信吾（25）：報道バズ社員。ゲイ。機械に強い、いわゆる「おたく」。人前での主張が弱く、常に自分の努力を無視されてきた無口な男。報道バズで少しずつチームワークの楽しみを学ぶ。

（倉持 哲郎：「Man from Reno（Dave Boyle監督、ロサンゼルス映画祭The Best Narrative Award)」、「蟹工船 (SABU 監督、第60回 ベルリン国際映画祭 フォーラム部門 正式出品)」他。）

相関図



❖ 各話あらすじ

実写フィクションドラマ（約 15 分×6 話）

第 1 話「勘違いアナ」

新しい街、新しい仕事、新しいわたし…。一念発起してニューヨーク転勤を決意したアナウンサーの和田明日佳（27）は、憧れのジャーナリスト相馬愛子の息子である柴田哲也（37）の元で働けるとあって、期待に胸を膨らませ、新しい就職先であるニュースアプリ「報道バズ」のブルックリンオフィスに初めて出社。個性的なチームメンバーとの顔合わせの後、ジャーナリストの徳川エリ（50）が報道バズのために用意したビデオを見て、日本の「報道の自由度の低さ」を問題にした強いメッセージに大きな刺激を受ける。そんな中、修学旅行生が行方不明になったという情報が舞い込み、柴田は力試しとして和田にアドリブで速報のニュースを読むように指示。「どうせバラエティ出身だから無理だろう」と見下していた柴田の予想を裏切り、この仕事を完璧にこなす和田。幸先の良いスタートを切ったかに見えたが、「キョウカ」という名前のネトウヨに隠し撮りされたパンチラ写真がネットに出回り、「勘違いアナは消えろ」と書かれた手紙が報道バズオフィスに届くことで、雲行きは怪しくなる。

第 2 話「嘘がないこと」

日本で勤めていた関東テレビの元上司とニューヨークで再開した和田。アイドルの全米コンサートを取材するために来ている佐々木が、同アイドルの芸能事務所からの手厚い接待を当たり前のように受け入れている様子を見て、報道番組としては放送倫理違反であることを突きつける。さらに、政治的な摩擦によって報道バズを辞めることを決意した徳川は、芸能事務所の利害関係に操作された佐々木の「やらせ報道」の様子を突撃取材することを和田に持ちかける。気後れしながらも、徳川の助けにより取材を決行し、素材をオフィスに持ち帰った和田。放送すべきだと主張する和田に難色を示す柴田だったが、徳川と和田が発した「嘘のない報道」という言葉に感化され、放送を決める。

第 3 話「流すべきか、流すべきではないか」

自分の居場所を築くため、さらにネトウヨ「キョウカ」からの攻撃を跳ね返すために、前にも増して意欲的に仕事をこなす和田。アメリカ政府の日本政府盗聴問題に関する重大なスクープを手に入れたかに見えた和田だったが、実は、そのスクープは大手新聞記者に扮した詐欺師リチャード（50）によるガセネタだった。責任を感じた和田は、会社のトップとして柴田が自分だけで出演すると決めた謝罪中継に突然割り込み、一緒に頭を下げる。過去の自分の上司を断罪した前回の報道、さらに今回の誤報によって、キョウカによる誹謗中傷や盗撮画像のアップロードは、ますます過激になっていく。

第 4 話「初めまして、キョウカ」

「まさか、キョウカは報道バズの中にいるのではないか。」精神的に追い詰められていく中でそう思った和田は、報道バズ内のメンバーしか知らないニュース映像を流し、それについてキョウカからツイートがあるかどうかを調べる「おとり作戦」を思いつく。作戦は、柴田以外のメンバーには「おとり」であることは秘密にして決行される。セクハラ関係のコメントを好むキョウカが必ずツイートするような題材として選ばれたのは、下着姿でカメラの前に立った和田が、テレビ内での女性の扱われ方に疑問を提言するというもの。「杞憂であってほしい」という切なる思いも虚しく、すぐさまキョウカはこの放送についてツイートを続け、これまでの激しい誹謗中傷や隠し撮りの犯人が報道バズの中にいることが明らかになる。自分の弟と同い年、弟と同じくゲイであり、和田がチームの中で一番慕っていた田村だ。田村の家を訪ね、自分の部屋に設置されていた隠しカメラを突きつけて自首することを求める和田は、そのまま田村と掴み合いの口論になり、はずみで頭を床にぶつけて気を失ってしまう。

第5話「本音を語る」

田村のアパートで、椅子に縛られた和田。その「監禁」の様子をネットで生中継する田村。異変に気がついた近藤と森は、田村の家に行こうとするが、住所が加工されており簡単にはたどり着けな い。和田がニュースを読む仕事に就けているのは見た目だけが理由だ、注目を集めたいだけでアナウンサーになった和田の中身は空っぽだ、と和田の人格や能力を批判し続ける田村。お互いの本音をぶつけ合う口論の末、田村は睡眠薬を大量に飲み、意識を失ってしまう。監禁から解放されて憔悴状態の和田のところに駆けつけた柴田、近藤、森の元に、関東テレビが報道バズを買収したというニュースが飛び込む。

第 6 話「ありがとうニューヨーク」（最終話）

佐々木に呼び出された和田は、報道バズの買収がもともと計画されていたこと、柴田もその計画に関わっていたことを知らされる。監禁の様子が生中継されて「時の人」となった今の和田の知名度に目をつけた佐々木は、「関東テレビで引き続き報道バズをやらないか」と和田を誘う。その誘いを、きっぱりと断る和田。しかし数日後、なんと買収計画の中心人物の 1 人であったはずの柴田から、報道バズではなく、自分が新しく立ち上げたメディアで一緒にやらないかとの誘いを受ける。柴田は、報道バズを辞めたのだ。「ステマのプロデューサーがトップの会社で報道はできません」そう言う柴田は、「芸能事務所とメディアの癒着」のニュースの時に和田に感化されてから、「嘘のない」新しいメディアを立ち上げる計画を進めていたのだった。柴田の新しいメディアのメンバーとなった和田は、報道バズ入社直後から 1 人で追っていた警察の不祥事の取材に駆けつける。その時の和田の顔つきは渡米当初とは違い、ジャーナリストそのもの。そんな和田を、報道バズで苦楽を共にした、柴田、近藤、森が温かく見守っていた。

在ニューヨーク日本人クリエーターチーム

Derrrrruq!!!

カメラの裏側に 新しい視点を

デルック（Derrrrruq!!!）は、生まれ育った日本を離れ、生活と仕事の基盤をニューヨークに移した3人の日本人によって結成されました。チーム名には、海外にいるからこそ、日本社会から叩かれるような斬新なアイディアを提案する「出る杭」になろうというメンバーの意志が反映されています。２人の女性と１人のゲイ男性で構成されるデルックは、視聴後に会話が生まれるような作品を作ることを目標とし、「男らしさ」「女らしさ」「日本人らしさ」などの固定観念と戦うキャラクターたちを描きます。

メンバー紹介

- 川出真理　監督/プロデューサー (marikawade.com)
  兵庫県出身、コンサート・イベントプロデューサーを経て、中年期に映像ディレクターにキャリア・チェンジ。自身が監督した作品で4つの賞を受賞している。年齢や性別に制限されず誰でも挑戦する自由が与えられているニューヨークの懐の広さに魅せられ渡米。

- 近藤司　脚本/プロデューサー (tsukasakondo.com)
  兵庫県出身、京都大卒。多くのメディアでゲイであることを積極的にカミングアウトしている。全米劇作家組合に所属し、マイノリティ目線、社会派の作品を多く手がける。多様性が魅力のニューヨークに居場所を見出し渡米。

- 本田真穂　主演(和田明日佳)/プロデューサー (mahohonda.com)
  茨城県出身、早稲田大卒。全米映画俳優組合、米国テレビ・ラジオ芸能人組合に所属し、映像作品を中心に活動。日本と中国での芸能活動の後、建前を脱ぎ捨て、1人1人がありのままでいられるニューヨークの空気に感化され渡米。

3人の出会い

2011年の冬、本田とは演劇学校で、川出とは短編映画で知り合っていた近藤の呼びかけをきっかけに、雪の降るニューヨークのスターバックスで、 3人は初めて顔合わせをしました。その年の東日本震災を転機に、日本人同士で協力し合い、生まれ育った母国を少しでも元気づけるような応援メッセージを投げたいという思いを共にしていた3人が、1つのチームとなりました。

第1作目『二アベ（2nd アベニュー）』（2ave.weebly.com)

この企画は後に『二アベ』と名付けられ、全6話の第1シーズンが2013年に撮影されました。約200万円（内キックスターターによる寄付が約120万円）の製作費で、「普通の」日本社会の枠からはみ出した2人の日本人（女優志望のグラビアモデル マリコと、ゲイの貧乏大学院生 タイチ）がニューヨークで出会い、自分の本来あるべき姿と、本当に大切なものを発見していく過程を追ったハートフルコメディが完成しました。我々の実体験と日米両国の視点を生かし、「人と違って当たり前」というメッセージを込めて製作した『二アベ』は、日米15社以上の企業、50名以上の出演者＆スタッフ、さらに300人以上の協力者を得て、2014年2月に全話を公開することができました。（掲載メディア：朝日新聞、Yahoo!ニュース、ニューヨーク経済新聞、装苑、NYジャピオン、週刊NY生活、ウィークリー・ビズ、US Frontline、Badi、roomie.jp）。

『二アベ』から『報道バズ』へ

2014年春、『二アベ』を見て共感してくださった、アカデミー賞受賞映画『この世界の片隅に』のプロデューサー、マスヤマコムさんに始まり、放送作家として『攻殻機動隊』『エウレカセブン』を手がけた佐藤大さん、ハリウッドで活躍する俳優の松崎悠希さんなど、素晴らしい仲間が作品に参加してくださったことをきっかけに、本作『報道バズ』は動き出しました。2016年11月に全話の撮影を終え、2017年8月現在、全6話中第1話と第2話、さらにシリーズ予告編の編集が完了しています。

❖ 関連リンク

- デルック ウェブサイト：www.derrruq.com
- ニアベ（2ndアベニュー）

  ウェブサイト: www.2ave.weebly.com

  YouTubeチャンネル: www.youtube.com/2avewebseries

  Facebook: https://www.facebook.com/2aveWebSeries

❖ お問い合わせ

info@derrrrruq.com

© 2017 Tall Trees Playrgound LLC. All Rights Reserved.